

第3回 雲出川水系中村川・波瀬川・赤川流域水害対策協議会 議事要旨

日時：令和6年6月4日（火）16:00～17:00

場所：三重河川国道事務所災害対策室＋WEB 会議

1. 開会

2. 挨拶

- 佐藤 中部地方整備局長

- 流域水害対策計画の策定は、直轄河川としては全国で4番目、中部地方整備局管内初の試みである。協力いただいた関係機関の皆様に、感謝申し上げます。
- 本計画では、中村川沿川における水田貯留の実施といった具体的な事項を含めて、多くの点で合意形成ができたため、大きな進歩である。
- 貯留機能保全区域・浸水被害防止区域の指定、雨水貯留浸透施設の整備については今後、協議会で議論していくという合意形成ができた。
- 本計画はゴールではなくスタートである。水害に強い地域にしていくため、「流域治水 by All」の精神で取り組んでいきたい。

- 前葉 津市長

- 本計画は流域治水を推進し、雲出川水系全体の整備を進めるチャンスである。
- 雲出川水系河川整備計画は、平成27年～令和6年までの10年間で、事業費139億円を積み上げている。この内、国土強靱化による事業費が57億円と聞いており、事業の加速化について、感謝申し上げます。
- 津市では、波瀬川排水区における内水対策として、雨水ポンプ場の設置や水路整備といった17億円相当の事業を、今年から5年間で実施していく予定である。
- 雲出川左岸側では、国土交通省の遊水地整備に先行して、地籍調査をしている。国より社会資本整備円滑化地籍整備事業費補助をいただいたため、用地測量や地図の作成といった準備を進めていきたい。
- 今後、流域治水を推進していくことを約束する。

- 竹上 松阪市長

- 短期間で計画をまとめていただいたことに、感謝申し上げます。
- 国土交通省については、予算を確保し、中村川の河道掘削・護岸整備を進めていただいており、感謝申し上げます。
- パブリックコメントでは、流域の現状を理解し、浸水被害減少に向けて、より良い計画にしていこうという賛同の意見が多かった。それに伴い、大きな責任を感じている。

- 伊勢中川駅周辺では都市開発のニーズが多いため、まちづくりと災害リスク回避の両立が重要である。区域指定については、地元住民との意見交換を重ねて、慎重に検討していきたい。
- 本協議会後も、定期的な確認作業を行い、浸水被害軽減に取り組んでいきたい。

3. 議事

(1) 雲出川水系中村川・波瀬川・赤川流域水害対策計画（案）について

- 斎藤 須ヶ瀬地区自治会会長
 - 資料（別紙-4）における「須賀瀬町」の表記に誤字があるため、修正して欲しい。
（須ヶ瀬町へ修正）
→事務局
該当箇所について、ご指摘を反映する。
- 芳尾 豊地まちづくり協議会会長
 - 大谷川下流部で水田貯留を開始した段階である。今後は、大谷川流域全体に、水田貯留を広げていきたい。
 - ため池の貯留では、決壊の恐れがあることが問題と思っている。住居に影響がある箇所の対策についてため池決壊の対応策も併せて検討して欲しい。
→事務局
農政局や市町と情報共有していきたい。

(2) 協議会全体を通しての議論

- 芳尾 豊地まちづくり協議会会長
 - 計画を実行に移していきたいと切実に思っている地元住民もいるため、各地区の住民と相談しながら災害を未然に防げるよう、まちづくりとの調整を図りながら計画を実行して欲しい。
 - 大谷川の土砂堆積・樹木繁茂が放置されているため、対策を実施して欲しい。
→松尾 中部大学名誉教授
できるだけ早く効果を発現させるためにも、タイミングを逃さずに事業を進めていくことが重要である。
- 斎藤 須ヶ瀬地区自治会会長
 - 事業は前倒しで進めて欲しい。牧・小戸木遊水地の調整が難航していると伺っているため、定期的な情報提供を依頼する。
→事務局
関係機関と連携しながら、計画策定や事業を進めていく。

- 松尾 中部大学名誉教授
 - パブリックコメントが、適切に計画に反映されていると感じた。
 - 今後、現地調査を必要とする案件があるため、現地状況を踏まえて適切に対応して欲しい。
 - 事業を進めていく上での課題が残されているため、地域と連携しながら、適切に対策を講じて欲しい。
- 事務局
 - 雲出川水系中村川・波瀬川・赤川流域水害対策計画は、合意された。

4. 閉会

- 若尾 三重県県土整備部長
 - 雲出川水系中村川・波瀬川・赤川流域水害対策計画を合意いただいたことに、感謝申し上げます。
 - パブリックコメントが反映され、良い計画になったと考えている。また、本地域の方々が水害に対して真摯に考えていただいていることを改めて実感した。
 - 本計画に従って、関係機関と連携しながら、ハード整備の加速化や土地利用規制の検討を進めていきたい。
 - 三重県では、赤川における引堤や護岸整備を国土強靱化のための5か年加速化対策予算も活用し推進していきたい。
 - 土地利用規制は、今後対応すべき課題である。まちづくりを含めて、地元住民の意見を聞きながら、丁寧に進めていきたい。

以上